一般質問

12月定例会

内藤 眞一議員

Q 道の駅頓原周辺整備を

道の駅頓原周辺の店舗では、自動車専用道路尾道松江線開通による売り上げの減少が続いており、関係者で道の駅頓原連絡協議会等を組織し、町内外からの集客を図る計画を立てている。

本町が森林セラピーの町であるなら、道の駅頓原周辺にある緑地公園を開発・活用できないか。また、今後森林セラピーの町として、どのような方向性を持っているのか。

頓原緑地公園

A 森林セラピー基地として

町長 山碕 英樹

緑地公園の遊歩道は、審査基準にそって現地確認したが、セラピーロードとしてはアップダウンが厳しすぎるという指摘がある。むしろ、町全体が森林セラピー基地であるという中で、関係者と連携して利用したい。

本町の約90％を占める森林資源を活用する目的で、今後の方向性としては、町民・国民の健康づくり、セラピー体験者の活動による経済効果を求めていく。

そのための体制を強化し、推進方法を明確にすることで、町民の誇りとなる、町民が主役の森林セラピー事業として推進したい。

Q 民族資料館の移転整備を

今後の道の駅頓原周辺施設への集客を考えたとき、緑地公園整備の中に民俗資料館の移転整備を検討してはどうか。

民俗資料館

A 検討事項としたい

町長 山碕 英樹

この施設は、本町の民族資料を保存管理し、一般に公開することを目的に設置している。

現在の立地は、道路改良工事の予定もあり、立地環境が変化するので、移転は一つの考え方だ。

管理者である教育委員会と協議が必要であり、検討事項としたい。

A 他の施設とセットで検討

教育長 安部 亘

本町の民俗資料館は、昭和45年に建設され、貴重な民具を展示、保存、管理している。

他に、町史編さん資料、八神文化財収蔵施設等がある。

町の財産として、セットで観光振興にも繋がる保存管理の方法を検討したい。

一般質問

12月定例会

伊藤 好晴 議員

Q 琴引山系乱開発と再発防止

飯南トータルサポートが他人の山林に無断で立ち入り、開発を行った。現地では表土がはがれていたり、土が流出したりしており、土砂崩れの可能性も否定できない。保安林の指定がある山林は、一定の基準がないと歯止めがきかなくなる。

土砂崩れの防止が必要と思う。放置されると、人命に関わったり、財産の滅失にも繋がる。農作物の品質・収穫量への影響も予測される。どのような措置を取るのか。費用は誰が負担するのか。

保安林の無届け・無許可での伐採には罰金刑もある。地権者との会合で、「法律違反はしていない、罰則も当たらない」こういう説明をしているが、謙虚さが足らない。法的な面での今回の対応は不十分ではないか。告発などは当事者に対する制裁として大きな意味がある。

集客につながっても地域に不利益が生じてはならないし、許されない。公の施設の想定以外の事業導入には、許可制など規制が必要と思うがどうか。

タイヤ痕の残る山林

A 熟知するよう指導する

町長 山碕 英樹

言語道断、あるまじき行為である。関係法令、施設の設置管理条例などを熟知するよう指導する。適切な公の施設の運営、指定管理制度を有効に活用していく。

A 認識できるよう対応していく

産業振興課長 大谷 哲也

保安林は町の責任下で、再発防止に努めるよう県から指導を受けた。保安林は、面的に伐採する場合には届出が必要である。

溝は修復させたが「濁り水」に関して配慮が必要。下流の砂防ダムについて協議し対応する。

町の認識不足は間違いない。教訓を生かしていく。

Q 飯南病院の今後は

島根県地域医療構想は、県内のベッド数を2200床削減するものである。医師会は対応できないとしている。保険医協会のアンケートでも、病床削減や早期退院の促進について、反対の声が大きい。

『入院から在宅』へという国の方針を先生方は理解されていない。全く現実を直視しない、机上での推測に基づくものである。

国の示す方針が地方に当てはまらないことがはっきり見て取れる。

町長の行政報告は納得がいかない。「町民目線でしっかり考える」べきではないか。

A 他の施設とセットで検討

町長 山碕 英樹

法律に基づいて策定されたもので、本町の医療、地域包括ケアシステムの構築に資すると考えている。

「医療と教育のないところに定住は無い」と思う。地域包括ケアシステムの構築は、本町の町づくりである。中山間地域の医療の重要性を、町内外に強く示していく。

※その他、就学援助の入学準備金増額を求める質問があり、貴重な提案として受けとめるという答弁があった。